

●稲生物怪録

○三次遠景

三次の夏。

○河川の風景

ここでは、西城川や馬洗川など、3つの支流が江の川に合流しています。

○鶺鴒

夜になると川の景色は一変、川面に鶺鴒の灯りがとまり、幻想的な世界が浮かび上がります。

三次の鶺鴒の始まりは戦国時代の末といわれ、およそ400年以上の歴史をもっています。

鶺鴒の船と遊覧船が併走するため、間近で鶺鴒を楽しむことができます。

○三次物怪まつり

三次の夜は鶺鴒ばかりではありません。妖しいものが徘徊する夜もあります。

三次物怪まつりは

様々な妖怪に仮装した人たちが夜の街を練り歩く百鬼夜行。

○稲生物怪録

物怪まつりのもとになったのが、江戸時代の末に柏正甫という人物が三次で書いた「稲生物怪録」。

○絵巻物

江戸時代の有名な学者、  
平田篤胤ひらたあつたねが発掘して、  
世に出した奇想天外な妖怪話きょうがいばなしです。

稲生平太郎いなのうへ、たろうという少年が、  
肝試しきもだめしをしたところ、

7月の一カ月にわたって、毎晩  
あらゆる妖怪が現れます。

それをことごとくしりぞけ、退治すると  
最後に妖怪の大将がやってきて、

平太郎の勇気をたたえます。

こわい妖怪も、ここでは

ちよつとユーマラスに見えますが、

このようなお話が、どうして三次で  
生まれたのでしょうか。

○平川さんインタビュー

平川さん「三次は小さいとはいえ一つの独立した

藩でしたので、そういったところから当  
然江戸との行き来というのは当然あるわ  
けです。ですから、そういった江戸の文  
化というのがいろんな形で入ってきてい  
る、そういったのはあったと思います。  
それとあとこの地域の風土とかですね、  
そういったものもあったのかも分かりま  
せんね」

○稲生武太夫石碑

実は物語の主人公だった稲生平太郎は、  
実在の人物。

その屋敷跡には、今でも石碑が残って  
います。

平太郎は武太夫ぶだゆうの幼名よなめいです。

○小菊さんインタビュー

その子孫で、やはり平太郎と名乗っていた人物が、  
稲生小菊さんのご主人です。

小菊さん「あの主人は次男なんです。で長男が5歳の時になくなったんです。でそのあとに今度姉が4人ですかないたらしいんですけど、それが皆な20から25、6で結核でなくなってるんですよ。一番最後に主人が生まれて、でどうしてあとこれで絶やさないように続けてほしいということで、親がその武勇伝をなした、平太郎、これを付けておけば大丈夫だろうということで付けてくれたと自分では合ってるですよ。ね、そこで平太郎になったんだそうです。」